

歌舞伎に女性の俳優は存在せず、その役割を女形が担当していました。明治以降、西欧演劇をモデルに近代劇を生み出そうとするとき、女優の不在は大きな問題となります。日本の近代劇の黎明期、女優になろうとした二人の女性、川上貞奴と松井須磨子を取りあげ、近代劇における女優の意味を考えます。



松井須磨子 ノラ『人形の家』



川上貞奴 オフィーリア『ハムレット』

二〇一七年度第六回大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ

予約不要・参加費無料

近代劇と女優

— 貞奴と須磨子を手がかりに —

2018年

2/21 wed 18:00 ~ 19:00 (17:30 open)

話題提供

伊藤 茂 神戸学院大学人文学部教授

場 所

大塩邸 (地域研究センター明石ハウス) 明石市大蔵八幡町5-23

神戸学院大学地域研究センター

☎ 651-2180

神戸市西区伊川谷町有瀬 518

☎ 078-974-4232 (火・水・金)

E-mail: frb@human.kobegakuin.ac.jp

■バス：JR明石駅より神姫バス「黒橋」下車、徒歩9分

■電車：山陽電車「大蔵谷駅」下車、徒歩5分
JR「明石駅」下車、徒歩15分
(南口より国道2号線を東へ)

■車：国道2号線の黒橋東交差点を南に曲がり、80メートルほど進んだ右側にコインパーキングがあります
(有料：1時間 100円)

